

**真理の子孫****ヨハネ8:31～36 / 李正雨牧師**

多くの人々は、真理を探求しています。そして、自分の分野でその真理を理解するために最善を尽くします。自然科学、文学、哲学、医学、数学、法学など、真理を求める分野は、非常に多様で広いです。宗教でも同じです。私たちのキリスト教だけでなく、多くの宗教で真実を追求して研究し、大切にしています。宗教から真理を求める過程は、いろいろな姿で示されています。禁欲や苦行をしたり、霊的なことを悟るために黙想や祈りをしたりします。それぞれ自分たちの経典を研究し、多くの規則や制度、行動綱領などを作り出しました。イエスさまの時代には、このような考えがあまりにも固くなり、規則に従うことが真理であるように思われることもありました。イエスさまの議論の中でほとんどがこれと関連した議論でした。果たして、これらのことによって真実を悟ることができたのでしょうか。人によって考えが違いますが、私は、このような制度と体の修練は、真理を追求するのには、ある程度の助けを与えるだけだと思います。助けは受けられるかもしれませんが、真理の根本ではないということです。今日、私たちに与えられた福音書は、この真理というものを扱っています。真理とは何なのか、そしてこの真理が私たちにどのような影響を与えるのかを教えてください。

今日の福音書はこう始まります。31節の言葉です。「イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『私の言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。』」イエスさまは、今日のこの言葉をご自分を信じたユダヤ人に言われたそうです。ここでご自分を信じたユダヤ人たちというのは、弟子たちを意味するものではありません。イエスさまの教えを聞いてイエスさまを信じた人々、つまりイエスさまに従おうと一度思っていた人々を意味するのです。それで彼らにとってのイエスさまは、絶対的な方ではありませんでした。彼らがイエスさまをメシアとして信じたのではなく、新しい霊的なリーダーとして受け入れようとしたからです。イエスさまは、このような人々にご自分の言葉にとどまるならば、ご自分の弟子になると言われます。そして32節の言葉、「あなたたちは真実を知り、真理はあなたたちを自由にする」と言われます。

私はこの言葉が信じる者について来る者を分けることだと思います。イエスさまはご自分を信じるという人々にこの言葉を言われることによって、彼らの信仰というものがどれほどうすっぺらなものであるかを示されます。そして彼らの信仰は、イエスさまを信じることではなく、自分たちの信念を信じることだということを示されます。彼らはイエスさまの言葉にすぐ反論します。彼らの信仰の本体が現れた瞬間です。33節の言葉です。「すると、彼らは言った。『わたしたちはアブラハムの子孫です。今までだれかの奴隷になったことはありません。『あなたたちは自由になる』とどうして言われるのですか。』」彼らはイエスさまが言われた「自由」という言葉に敏感に反応します。なぜ彼らはこんな敏感に反応したのでしょうか。そして、なぜだれかの奴隷になったことはないと言ったのでしょうか。イスラエルの歴史上、イスラエルはその時代の強い国から支配されました。エジプトの支配から脱出したこともあり、アッシリアとバビロニアによって、国が滅びたこともあります。再び国を建てましたが、イエスさまの時代には、ローマから支配されていました。

ところがユダヤ人たちは、自分がだれかの奴隷になったことはないと言います。

彼らがこのように言うには、理由があると思います。まず、当時のユダヤ人たちは、支配についての考えが違いました。自分たちが侵略や支配を受けているのは、罪に対する結果だと思いました。自分たちが神さまに罪を犯したので、罰を受けていると思いました。しかし時が来ると、神さまは自分たちを赦し、苦難から救われると信じていました。それで、罪の結果として侵略され、政治的に支配されていますが、宗教の自由は奪われていないと思っていました。このような考えを持っていたので、当時の有名なラビたちは「すべてのイスラエル人は王の子孫、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫である」と教えました。そして、神さまとアブラハムとの契約によって、自分たちはあらゆる状況から救われると信じていました。このような教えと信仰から出てきた言葉の一つが「割礼を受けた者は地獄に落ちない」という言葉です。

それで彼らは、自らをアブラハムの子孫だと言いました。神さまとの契約が自分たちを守ってくれるだろうと信じ、引き続きこの契約に縛られていたいと思いました。契約が壊れることを望む人は、誰もいなかったと思います。しかし、イエスさまはこの契約ではなく、真理があなたたちを自由にすると言われました。契約は自由を与えられないからです。34節の言葉です。「イエスはお答えになった。『はっきり言っておく。罪を犯す者はだれでも罪の奴隷である。』」罪の問題から自由な人は、誰もいません。これは神さまと契約を結んだユダヤ人たちも同じでしょう。彼らは契約が自分たちを守ってくれると信じていました。しかし、契約は罪を犯してはいけないと命じていました。むしろ、神さまと結ばれた契約が自分たちをもっと締めているというわけでした。そして彼らは、神さまが契約通りに自分たちを守ってくださることを願いましたが、これも可能なことではありませんでした。罪の問題を解決しないと、契約は効力を発揮することができないからです。だから契約の中に縛られている人は、自由ではないのです。

先週、私たちはバルティマイの物語を通して、目を癒されたバルティマイがイエスさまに従ったということが分かりました。イエスさまは彼に「行きなさい。あなたの信仰はあなたを救った」と言われました。この言葉の中で、私たちは契約に関するどんなものも見つけることはできません。イエスさまはバルティマイと契約を結ばれませんでした。「目を癒してあげたから、わたしに従いなさい」と言われませんでした。むしろイエスさまは「行きなさい」と言われました。癒されたから、自分の生活に戻りなさいという言葉です。しかし、バルティマイは自分の道に戻りませんでした。なお道を進んでイエスさまに従いました。彼が自分の道に戻らなかった理由は、何でしょうか。私は、彼が本当の目を覚ましたから、真理に目を覚ましたからだと思います。

真理は自由を与えます。契約で締めることはしません。そして私たちは、この自由の中でイエスさまに従い、仕えています。今日の福音書36節で、イエスさまはこのように言われます。「だから、もし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。」イエスさまのこの言葉によって、私たちは多くの束縛から自由になるのです。イエスさまを信じる信仰が私たちをすべてのことから自由にしてください。罪と死、恐れと心配から、私たちは自由になります。これがイエスさまが今日、私たちに教えてくださる真理の言葉です。イギリスの神学者トム・ライトは「自由と真理は手をつないで一緒に行く」と言いました。真理の子孫である私たちに真の自由がありますように。人を縛っているものから自由になる皆様になりますように、主の御名によって祈ります。

アーメン